

会派視察報告書

会派の視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和8年4月17日

光市議会議長 森戸 芳史 様

光市議会 会派「共創」 田中 陽三

仲山 哲男

1, 視察年月日 令和8年2月4日から

令和8年2月5日まで

2, 視察先 佐賀県唐津市

福岡県筑前町

3, 調査結果 別紙のとおり

会派「共創」行政視察調査結果

日 時	令和8年2月4日（水）13:30～15:30
市町村名	佐賀県唐津市
テーマ	1 松林整備と松葉の活用について 2 自治体クラウドファンディングについて
視察場所	唐津市役所
応対者	唐津市 商工観光部 からつブランド・ふるさと寄附推進課室長 兼 コスメティック産業振興室長 藤井謙策 からつブランド・ふるさと寄附推進課長 新郷健太 観光課施設係長 山崎周一 観光課施設係 原田吉子



1 「松林整備と松葉の活用について」

「松林整備と松葉の活用について」は、現在、光市の大きな自然財産である室積海岸、虹ヶ浜海岸の松林において枯れ松や枯れ枝が増え、落下による物損事故の発生や景観の悪化、また、長年堆積してきた松葉が堆肥化することによる雑林化など適切な管理が課題となっている。そのような中、住民ボランティアによる松葉清掃活動の広がりもあり、光市としてもその松葉の活用について民間からアイデアを募集する民間提案制度も始まっている。松林の管理、松葉の活用の取り組みに歴史があり、民間（NPO 法人や高校）とも連携して先進的にも取り組まれている唐津市の取り組みを学ぶことにより光市にも活用できないか探るため現地見学も含めて調査するため、視察を行った。

- ・松林整備と松葉の活用については、「虹の松原再生・保全実行計画」が定められていることが前提としてあり、以下に概要を紹介する。

(1) 虹の松原の概要

虹の松原について

- ・虹の松原は、幅約 500m、長さ約 4.5 km にわたるクロマツを主体とした松原であり面積は 214 ha。特別名勝、玄海国定公園に指定され日本三大松原にも選ばれています。

虹の松原のゾーニング

- ・近年の生活様式の変化による松林の景観低下を受け、森林管理署において「基本計画」が策定され、虹の松原を 3 つのゾーンに分け、それぞれに目標林型を設定。

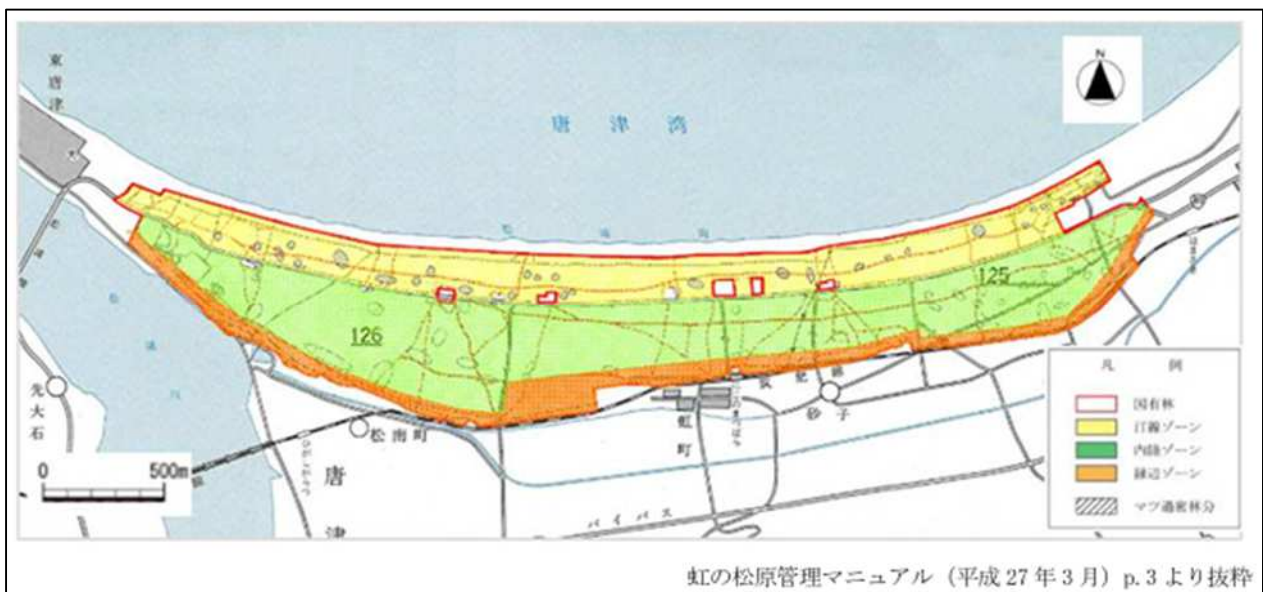


表 2-2 ゾーン毎の整備方針

	汀線ゾーン	内陸ゾーン	縁辺ゾーン
目標林型	クロマツ単相林	クロマツ単相林	広葉樹林
機能 <small>大アは主な機能</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・防風 ・潮害防備 ・風致・レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・防風 ・潮害防備 ・風致・レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・防風 ・潮害防備 ・風致・レクリエーション ・松原と生活空間の緩衝帯
景観目標	海からの環境圧を低減する重要な役割を発揮するよう、健全な（高さの低い頑健な下枝を持つ）マツで構成された白砂青松の景観。	生育が旺盛なクロマツのみが広がり、人が入りやすく、見通しの良い白砂青松の景観。	樹高の高い上層の広葉樹によって、背後への防災機能を発揮しつつ、中～下層の広葉樹を除去した、見通しの良い広葉樹林。
整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹除去 ・白砂青松を維持する管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹除去 ・白砂青松を維持する管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成種に応じた管理（下層を整理し景観配慮）



虹の松原管理マニュアル（平成 27 年 3 月）p.4 より抜粋、一部改編

（2）「虹の松原再生・保全実行計画」の概要

- ・森林管理者による「基本計画」の策定を受け、地域の CSO や自治体（佐賀県及び唐津市）が主体となって虹の松原の再生・保全に向けた具体的な取り組みを明らかにすることを目的として「実行計画」を策定。
 - ・2007 年度から計画期間を概ね 25 年程度とし、5 年ごとに区分し第 1 期から第 5 期までとし各期の節目には進捗を確認し、必要な見直しを行うことが定められている。
 - ・実行計画で目指す虹の松原の将来の姿
- ①汀線・内陸ゾーンは、広葉樹やマツの過密林が適切に伐採されてマツの単相林化が図られ、縁辺ゾーンは、不要となる下層広葉樹の伐採が行われ、併せて景観の維持・保全を図るための下草刈り、除草などが行われている。
 - ②虹の松原の全域で、CSO・市民等による松葉かき、除草、芽かき等の再生・保全活動が実施され、松原全体が「白砂青松」の状況に近づきつつあり、春と秋には、松原のいたるところでショウロの発生が観察できる。
 - ③市民のレクリエーションの場、ボランティアの場及び環境教育の場等の「生涯学習の場」として一層の活用がなされている。

(3) 第4期実行計画における重点活動

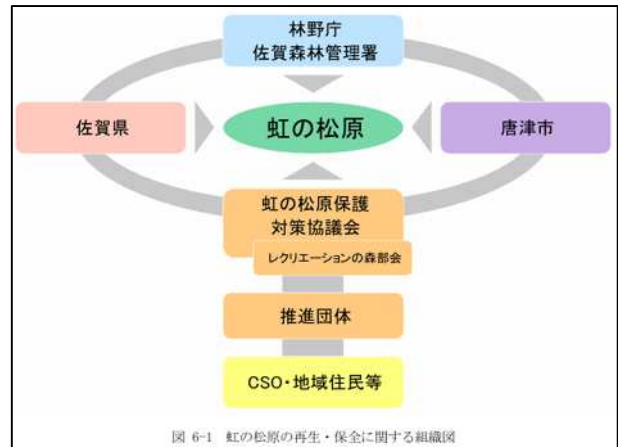
- ・腐植層除去を行った汀線ゾーンの集中的な景観保全活動の実施
- ・内陸ゾーンにおける下草刈りと広葉樹伐採による景観維持の実施
- ・保安林機能を維持するための保安全管理
- ・林内の安全管理に関する各主体の情報交換の実施
- ・副産物利用と観光活用への取り組み

(4) 実行計画の推進体制

右図のような体制で取り組んでいる。

実施方式は、以下の2方式

- ・「自由参加方式」
従来から取り組まれている清掃・美化運動や市民、ボランティア等の協力を得た松原全域の一斉清掃。
- ・「アダプト方式」
虹の松原内の一定の作業区域を養子にみたくて、市民・ボランティア等が里親になって養子（アダプト）の再生・保全活動を行う。



(5) 予算概要について

- ・令和7年度予算額 24,846,091 円
収入の負担金 24,670,000 円の内訳
佐賀県 12,470,000 円
唐津市 12,200,000 円

支出の内訳

- 清掃美化費 185,000 円、
- 再生活動支援費として推進組織運営費 12,100,000 円 NPO 法人 KANNE さんに、
- 活動支援事業費として協議会や回収委託 11,861,091 円、
- 唐津高校虹の松原研究班活動支援事業費 600,000 円

(6) 松葉の活用について

- ・枯損木等の回収で回収した松葉 2 t × 117 台は農家、たばこ農家で活用。
- ・唐津南高等学校虹の松原研究班活動支援事業として松葉のたい肥づくり、クッキー作り、松葉石鹸等取り組んでいるが商品化なかなか難しい。松葉ペレットは現在製作していない。



主な質疑応答

Q 松枯れの状況については？

A 薬剤空中散布を行っているが、被害木は、令和6年274本、令和5年451本、令和4年818本、令和3年196本

Q 5年に1回の伐採はローテーションだと思いますが、再生保全活動の自由参加方式とアダプト方式の状況と効果は？

A アダプトエリアは、全体が214haの中60ha、ボランティア活動エリアKPP参加方式（Keep Pine Project～虹の松原クリーン大作戦～）は、200人～300人が参加しているが、駐車場が松林の端にあるのでそこから歩いて行ける範囲

Q アダプト団体はどのような団体がありますか？

A 会社、学校、地域団体、市役所各部署等で、活動状況は、1回／週、1回／年の団体もあるが1回／月が多い。作業場所は、NPO法人KANNEさんと連携している。

Q NPO法人KANNEさんとは？

A NPO法人KANNE（唐津環境防災推進機構）、虹の松原再生・保全事業を委託している推進組織

Q アダプト団体数が多い理由は？

A 虹の松原は参加が多い。出前講座等で協力を呼び掛けてきた成果であり、1人のグループや自治会の中で複数あったりもする。

Q 市の職員の参加状況は？

A 強制ではなく協力のお願いで、全員参加ではないがボランティアに2/3 ぐらいは参加しているのではないかと。

所感

虹の松原の再生・保全是、管理者である国（佐賀森林管理署）や佐賀県、唐津市及びCSO（市民社会組織）、地域住民、企業等多様な主体と協働し、取り組みを行っている。なかでも、唐津市が主体となる組織である「虹の松原保護対策協議会」が、その中心的な役割を果たしており、ここから事務・業務等を委託された推進団体により、再生・保全活動への支援・補助を行う体制が整えられている。

あらためて、気が遠くなるほどの広さの松林保全を続けている原動力には、きちんとした計画や組織、市民の力があることを知ることができました。

松葉の活用については、商品化等はなかなか現実には厳しい状況でありましたが、高校生の研究活動のテーマとして愛郷心の育みにもつながるので良い取り組みと感じました。光市でも中学生の探究テーマとして活用できるのではないかと思います。



2 「自治体クラウドファンディングについて」

「自治体クラウドファンディングについて」は、光市では未導入の取組の中、全国的には多くの自治体で導入が広がっています。

その中で大きな実績を出されている唐津市の取り組みをお聞きし、仕組みや導入のメリット・デメリットについて学び、光市への導入に向けて可能性を探るため、視察を行なった。

(1) クラウドファンディング導入の経緯

- ・ふるさと寄付金の使途は条例で以下の5点を定めている
 - ①ふるさと唐津の自然環境を保護する事業
 - ②ふるさと唐津の文化遺産を保存及び整備する事業
 - ③ふるさと唐津の青少年の健全育成に資する事業
 - ④ふるさと唐津の障がい者及び高齢者に優しいまちづくり事業
 - ⑤唐津市の更なる発展に寄与する事業

ただし、上記の5つの使い道だけでは具体的な事業内容が分からない、寄附者は、寄附金の使い道についても興味がある事から、クラウドファンディングの活用を検討し、地域の魅力、課題を発信し、唐津市独自の事業に共感していただき寄附を行っていただくことで、寄附の使い道が明確となり事業内容の発信につながることから令和4年度から導入する。

(2) 事業選定方法など

- ・原則として本市の主要施策と位置付けられていること（総合計画等）と以下5点
 - ①唐津市がいつまでも光輝くふるさとであり続けるために必要な事業
 - ②市外からの外貨獲得が見込める事業（観光宿泊等地場消費がある事業）
 - ③地域経済の活性化または域内消費が促進される事業
 - ④市内若年人口の増加が期待できる事業
 - ⑤客観的にKPIの達成度を示し、貢献度を評価できる事業
- ・目標額の設定方法は、各事業の予算に応じて、担当課及びポータルサイト担当者と打ち合わせて設定している。
- ・返礼品は、事業に関連した返礼品または寄附が集まりやすそうな返礼品を選定している。例として海の保全に関する環境の取り組みにはイカなど海に関連するもの

(3) 寄附金額、返礼品等について

・令和元年度からの比較でも寄附金額及び寄附件数も毎年増加している。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
寄附金額	約 34.9 億円	約 44.1 億円	約 50.3 億円	約 53.9 億円	約 54.0 億円	約 55.6 億円
寄附件数	222,679 件	283,626 件	306,525 件	329,417 件	324,481 件	347,994 件

・唐津市の人気の返礼品の順位は

1位 肉加工品（ハンバーグ）

2位 牛肉・精肉（佐賀牛）

3位 海産物（呼子のイカ）

その他にも人気商品があるが、既設の生ものは確保が難しい現状がある。

(4) クラウドファンディングの実績について（目標額、寄附金額等）

・令和4年度から取り組み、令和7年度までに8事業実施しており6事業が達成。

・一番大きな事業は令和6年度の「唐津の魅力をもっと知って欲しい！新観光施設で周遊率UPプロジェクト」3カ月で目標金額6億円に対して6億5,747万円を達成。

・目標金額を達成していない事業もあるが、唐津市がどのような事に力を入れて取り組んでいるかを知っていただけるPRにつながっている。

① 令和4年度「私たちがおしたい！唐津市の明治の洋館修復プロジェクト」

達成 目標 100万円 寄附額 255万円 156人

② 令和5年度「私たちがおしたい！唐津市の明治の洋館修復プロジェクト」

不達成 目標 1,000万円 寄附額 158万円 87人

③ 令和6年度「虹の松原をみんなで未来へつなぐ挑戦」

達成 目標 1,000万円 寄附額 2,955万円 1,505人

④ 同年度「私たちがおしたい！唐津市の明治の洋館修復プロジェクト」

不達成 目標 1,000万円 寄附額 94万円 54人

⑤ 同年度「唐津の魅力をもっと知って欲しい！新観光施設で周遊率UPプロジェクト」

達成 目標 6億円 寄附額 6億5,747万円 49,345人

⑥ 令和7年度「虹の松原をみんなで未来へつなぐ挑戦」

1 **達成** 目標 1,000万円 寄附額 1,433万円 759人

2 **達成** 目標 1,000万円 寄附額 1,561万円 770人

⑦ 同年度「私たちがおしたい！唐津市の明治の洋館修復プロジェクト」

不達成 目標 1,000万円 寄附額 189万円 133人

⑧ 同年度「アマモがつなぐ海と未来へ“環境教育プロジェクト”」

達成 目標 200万円 寄附額 247万円 96人

(5) 分析評価、課題、改善点

- ・「環境」「教育」に関係する取り組みは、寄附者からも共感を得やすい。
- ・虹の松原再生保全事業は、9月、12月に呼び掛けることができ成果を得た。
- ・課題としては、事業期間が長期となる事業（特にハード整備事業）は、進捗が見えにくいため寄附が伸びない。
- ・改善点は、プロジェクトとサイトの特性などを考慮してクラウドファンディングを実施する。
- ・調査や設計が完了し、工事のみとなる時期にクラウドファンディングを実施したほうがよいかも？
- ・返礼品もクラウドファンディング専用にするなど工夫が必要。

(6) 今後の方向性

- ・寄附を増加させていくためには常に新しいことに挑戦！
全国1,700以上ある自治体の中から選んでいただくためには
 - ①アンテナを張り時代のニーズを掴んで行く
 - ②事業者へのフィードバック
 - ③返礼品をより魅力あるものへ
- ⇒唐津ファンになってもらえるように！



主な質疑応答

Q 自治体クラウドファンディングに取り組むことによって寄附全体への影響は？

A 自治体クラウドファンディングは、ポータルサイトの方が押し出してくれるので、その時に寄附につながらなくても知っていただいて、のちの寄附につながっているのではないかと思います。

Q 目標金額の設定は、事業の一部でしょうか全額でしょうか？

A クラファン担当部門、事業担当部門、ポータルサイト担当の3者で協議して設定。

Q 6億円を集めた事業についての金額設定の根拠は？

A ポータルサイトとの調整の中で、1~2年前からの実績、返礼品と事業の引きつける強さによりエビデンスをもって設定。

Q 市内からの寄附者の割合は？

A 約300万円近く。

Q 目標額未達成の時の会計上の取り扱いは？

A ふるさと寄附金基金から取り崩して充当するようにしており、元々財源を持っている。寄附金の約5割を基金に繰り入れるようにしており、超えたものは+ α になっている。

Q 花火大会を事業設定することは可能でしょうか？

A 市の事業として観光協会に委託するのであれば可能ではないかと思うがポータルサイト運営者に相談すればアドバイスをいただけたらと思います。

所感

職員の財源の確保や市の魅力発信によるファンの獲得、返礼品の確保などの取り組みのお話をお聞きし、熱意が伝わってきてたいへん魅力を感じる視察でした。

自治体クラウドファンディング自体は既にある仕組みで、ポータルサイト運営者からもアドバイスがいただける事業なので、自治体のやる気にかかっていると言えるのではないかと思います。光市では、7年度から民間資金を活用しての花火大会開催となりましたが、その課題解決にもつながる可能性があり、早急に光市にも取り組みを求めていきたいと思っています。

会派「共創」行政視察調査結果

日 時	令和8年2月5日(木) 14:00~15:30
市町村名	福岡県筑前町
テーマ	自治体クラウドファンディングを活用した戦跡の保存活用と 平和教育の取組み
視察場所	筑前町立大刀洗平和記念館
応対者	筑前町立大刀洗平和記念館 館長 神崎英照 館長補佐 畠中康江 筑前町企画課 企画調整・ふるさと納税係長 藤上隆太郎



「自治体クラウドファンディングを活用した戦跡の保存活用と平和教育の取組み」

筑前町は、かつて東洋一と謳われた陸軍大刀洗飛行場があった町で、財源の一部として自治体クラウドファンディング（クラウドファンディング型ふるさと納税）を活用し、筑前町大刀洗平和記念館整備や戦争遺構である掩体壕の保全活用に取り組んでいる。特定の事業に対し、財源を補う手法として自治体クラウドファンディングを活用し、成果を上げている事例として、視察を行った。

また、光市も海軍工廠とそれに付随する戦争遺構を有していることから、戦跡等の平和教育への活用の状況についても、調査を実施した。

1 大刀洗平和記念館の概要

（1）設立の経緯

- ・筑前町は平成の大合併により 三輪町、夜須町の2町が合併して誕生。
- ・合併時の「オンリーワン事業」として平和記念館建設が計画された。

主な経過

- ・平成16年8月 新町建設計画策定
- ・平成21年10月 大刀洗平和記念館開館
- ・平成29年 増築（現在説明している新館部分）

※開館後15周年を迎えている。

（2）入館者数の推移

- ・開館以来の累計入館者 約132万人
- ・年間目標 10万人
- ・コロナ禍では入館者が半数以下に減少 その後回復
令和6年度（2月末時点）入館者：104,510人
→ 久しぶりに年間10万人を突破

（3）組織体制

- ・設置主体 筑前町立施設
- ・行政組織上 「大刀洗平和記念館」という一つの課
- ・職員数 14名
内訳
正規職員：2名（館長＋課長）
その他：会計年度任用職員

2 クラウドファンディングの取り組み

筑前町では クラウドファンディング型ふるさと納税を2回実施

1回目：震電プロジェクト

「幻の戦闘機「震電」実物大模型展示へ！～大刀洗平和記念館～」

2回目：掩体壕整備「大刀洗飛行場の足跡を残す掩体壕を未来へ」

第1回クラウドファンディング

『震電プロジェクト』

(1) 内容 映画「ゴジラ-1.0」で使用された震電（実物大模型）購入費

(2) 特徴 幻の戦闘機ということで

コアな航空機ファンから
多くの寄付

(3) 実績

当初目標 500万円

途中で

ネクストゴール 1000万円

最終結果 1271万円

→ 目標達成



第2回クラウドファンディング

『戦跡：掩体壕整備』

(1) 背景

大刀洗飛行場の戦跡保存のため

- ・平成27年 大刀洗飛行場戦跡保存活用計画策定
- ・平成28年 掩体壕の用地取得

しかし整備方法を検討中で事業化は未定。

その後

- ・デジタル田園都市国家構想交付金（デジ電）の活用と合わせて令和6年度に整備事業化

その費用の一部をクラウドファンディングで調達

（2）プロジェクト概要

プロジェクト名 「大刀洗飛行場の足跡を残す掩体壕を未来へ」

- ・実施サイト **READYFOR**
- ・形式 ふるさと納税型クラウドファンディング
- ・方式 オールオアナッシング
※目標額未達の場合は寄付を返金

（3）募集概要

- ・期間 令和5年10月6日 ～ 令和5年11月30日
- ・目標額 **500万円**

（4）結果

- ・寄付者 **334人** 寄付額 **699万円** → 目標達成
- ・寄付内訳
 - 返礼品あり **481万円 (69%)**
 - 返礼品なし **218万円 (31%)**
- 町外からの寄付が多い

（5）返礼品

- ・寄付コース
 - 1万円 3万円 5万円 10万円 30万円 50万円
 - ※50万円コースの実績なし 最高寄付額は30万円
- ・返礼品の内容
 - 記念館年間パスポート ポストカード 限定入館チケット
 - 博多織ブックカバー&博多織コースター 天盃焼酎
 - 公開セレモニー&フィールドワークご招待
- ※ふるさと納税型のため町内在住者には返礼品なし。
そのため、返礼品なし寄付コースも設定

(6) クラウドファンディングの主な経費

- ・返礼品グッズ 約 49 万円
- ・チラシ印刷費
- ・郵送費
 - 返礼品発送
 - 寄附受領証明書送付
- ・プラットフォーム手数料
 - READYFOR 14% 金額 約 76 万円
 - ※前回（震電プロジェクト）は 18.7%

(7) 寄付獲得対策

前回寄付者への再アプローチ

- ・震電プロジェクトの寄付者へ 新しいプロジェクトの案内を直接送付
 - 寄付獲得に有効

(8) 自治体クラウドファンディングのメリット

- ・担当課の見解 返礼品不要の寄付が多い
 - 経費率が低い
 - クラウドファンディングは 経費率を抑えやすい
 - 総務省基準 経費 50%以内 達成に有利

3 筑前町のふるさと納税の状況

平成 27 年度受付開始 インターネットサイト（さとふる等）

(1) 寄付額

令和 7 年度 12 月時点 2 億 1500 万円

最終見込み 2 億 4000~2 億 5000 万円

※寄付回復の要因 県産米が人気 「ゆめつくし」「みゆきつくし」などの活用

(2) 返礼品

返礼品数の推移

年度	令和元年	令和2～3年	令和4年	令和5年	現在
返礼品数	約200	300～400	約600	約1300	1900以上

増加の例 ・米 10kg → 2kg×5

・定期便 5kg×3回

→ 都市部のニーズに合わせ、細分化の結果、返礼品数増加

主要返礼品

農業が基幹産業 特に「博多あまおう」 一時期は寄付額の40～50%

→ 令和元年「あまおう」が福岡県の共通返礼品に指定

県内自治体で競合 → 寄付額減少

県酪農のバター 今は米、鶏卵 明太子（町内に高屋の工場）

4 戦争遺跡の保存活用

貴重な戦争遺構を未来へ継承し、「物言わぬ語りべ」として戦争の実相を伝える役割を期待されている。

(1) 戦争遺跡の現状と活用方針

- ・**掩体壕（高上地区）**：大刀洗飛行場に現存する数少ない掩体壕（軍用機を空襲から守るための施設）で、町が買い取り、「戦跡保存公園」として整備中。
- ・**平和学習の拠点**：町立大刀洗平和記念館への来館者（特に修学旅行生）の体験学習を強化するため、戦跡巡りのフィールドワークを充実させる。
- ・**クラウドファンディング**：劣化が進む掩体壕の補修・補強、施設整備のための資金を募り、多くの支援を集めている。

(2) 目指すもの

- ・戦争遺跡そのものが語りかける存在として、平和教育の場を創出する。
- ・戦争の記憶を風化させず、未来の世代に伝える「物言わぬ語りべ」として活用する。



主な質疑応答

Q クラウドファンディングのプラットフォームとして **READYFOR** を選んだ理由は。

A 複数のサイトに相談したが、実施が難しいという回答もあった。

READYFOR は博物館や文化施設のクラウドファンディング実績が全国的にあり、震電プロジェクトについても実施できるという回答を得たため、同社を選定した。

Q オールオアナッシング方式を選択した理由は何ですか。

A **READYFOR** からのアドバイスによるものである。

オールオアナッシングの方が「達成しなければならない」という意識が寄付者に生まれ、寄付が集まりやすいという効果があると説明を受けた。

Q クラウドファンディングで目標金額に達しなかった場合はどうなる予定でしたか。

A 震電の実物大模型については購入契約が並行して進んでいたため、クラウドファンディングが不成立でも購入を進める必要があったので、予算計上しておき、寄付が集まった場合は、その分を予算に充当する形で対応している。

Q 返礼品はどのように決めましたか。

A **READYFOR** からのアドバイスも参考にしながら、記念館のスタッフが中心となって企画した。

Q クラウドファンディングの周知はどのように行いましたか。

A READYFOR のサイトを通じた情報発信のほか、町のホームページや広報紙などでも周知を行った。READYFOR には関心の高い支援者が登録されているため、プロジェクトを掲載すると反応が得やすい。

Q 効果のあったと思われる工夫は。

A 関係がある著名人の方たちの応援メッセージと写真をいただいて、サイトで掲載した。

Q 整備後の維持管理費もクラウドファンディングで賄うのでしょうか。

A クラウドファンディングは整備事業のための資金であり、維持管理費には充てていない。維持管理費は一般財源のほか、用途指定のふるさと納税や来館者からの寄付を積み立てた平和基金などを活用している。

Q 戦跡の活用について、どのような取り組みを行っていますか。

A 掩体壕の整備とあわせて、フィールドワークの仕組みづくりを進めている。ボランティアガイドを育成し、修学旅行や一般団体向けに戦跡を巡るフィールドワークを実施している。コースは滞在時間に応じて、45分、1時間、1時間半、2時間など複数設定しており、必ず掩体壕を見学する構成としている。また、フィールドワークの資料として、ボランティアが作成した手書きのコース図なども活用している。

Q 掩体壕整備ではどのような整備を行ったのでしょうか。

A 大型バスが入れるように道路の拡張を行い、駐車場も整備した。また屋外施設のためトイレを新設するなど、フィールドワークの拠点となるようなトイレ設置など環境整備を行っている。

Q フィールドワークのガイドはどのような体制ですか。

A 市民ボランティアが中心である。掩体壕整備に合わせて社会福祉協議会のボランティアセンターにも協力を依頼し、募集を行った。講座や育成は記念館が担当している。

Q 修学旅行の受け入れはどの程度ありますか。

A 以前は修学旅行の誘致は特に多くなかったが、館長などが関西の旅行会社のマッチング会に参加したり、県内小中学校にDM送付等でPR活動を行ってきた。その結果、現在では北海道から関東・関西まで全国から来館があり、高校生や近隣の小中学校も含め、年間約330校12500人程度が訪れている。

Q 修学旅行では周辺地域とどのように組み合わせて訪れるのでしょうか。

A 中学校の修学旅行では長崎方面へ向かう行程の中で立ち寄るケースが多い。

また、太宰府など周辺地域と組み合わせたコースとして訪れる場合もある。

長崎や広島は修学旅行の受け入れが飽和しており、新しい平和学習の訪問先として注目されているという旅行関係者の話もある。

Q 修学旅行向けにはどのような学習プログラムを用意していますか。

A 一般の来館者は館内展示を中心に見学してもらうが、修学旅行の場合は特別プログラムを用意している。主な内容は以下のプログラムを組み合わせ、平和学習として実施している。

- ・レクチャー室で解説員がパワーポイントによる歴史解説
- ・大刀洗飛行場の歴史をまとめた約 16 分の映像上映
- ・朗読ボランティアによる戦争民話の朗読
（「ほたる」「かわいそうな象」など）
- ・ピアノ伴奏による朗読

Q 空襲に関する追悼行事などは行っていますか。

A 大刀洗空襲があった 3 月 27 日を「平和の日」とし、慰霊碑のある場所で追悼の取り組みを行っている。

以前は語り部や朗読などの式典を行っていたが、高齢化やコロナの影響もあり、現在は献花形式で実施している。

また、子どもたちが平和メッセージを書いた灯籠を並べる「ピースキャンドル」も実施している。



所感

町の歴史に関わる戦争遺構を大切に伝え残し、平和教育に積極的に活かす財源の一部に充てるため、自治体クラウドファンディングに取り組んできた状況を伺い、光市において海軍工廠に関する文化財等資料や遺構を活かす道を模索する上で参考になる点が多くありました。

また、財源の確保と同時に町の在り方や政策の魅力のプロモーションともなるなど、成果を上げている状況も伺い、魅力ある政策立案に向け職員の意欲的な取り組みにつながっていることも強く感じられました。光市においても、共感を財源確保に繋げるだけでなく、政策立案する上でも、魅力を発信する上でも、職員の意欲的姿勢を育てる上でも、自治体クラウドファンディングには、ぜひトライするよう、働きかけていきたい。